

令和4年度 「港北つなぎ塾」実施報告

令和4年 12月

横浜市港北区役所 地域振興課 地域力推進担当

序：事業の概要

1. 事業の目的

本事業では、個々に区内で活動している団体等をつなぎ、複数の活動団体が共に連携して活動を行うことで、運営者の負担軽減、やりがいの実感を高めながら、団体のスキルアップや新たな人材の発掘・育成につなげることを目的とする。

2. 事業概要

- (1) 名称：港北つなぎ塾
- (2) テーマ：「みなさんの仲間を増やしませんか」
- (3) 開催場所：菊名ウォータープラザ402, 403会議室 横浜市港北区大豆戸町155
- (4) 開催時期・回数：開催日時は契約日から令和4年11月末日までの期間で、回数は2回とする。
- (5) 時間：1回について2時間程度とする
- (6) 取組の方向：令和4年度の「港北つなぎ塾」は地域のチカラ応援事業補助金交付団体・後援事業団体を中心に、区民利用施設や区民活動支援センターの登録団体、まちの先生が同じ目線で交流を深め、お互いの得意分野を持ち寄ることで、各団体が抱える課題解決を図り、新たな活動の創出や担い手の発掘・育成を進めていきます。

3. 開催案内

港北地振第 742号

令和4年8月12日

送付先

横浜市港北区地域振興課長

令和4年度第1回「港北つなぎ塾」開催のご案内

残暑の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃から、横浜市政の推進にご協力いただき、厚くお礼申し上げます。

さて、今年度ご縁があり一緒に補助金の交付や後援を受けることになった団体同士が、課題やお悩みを共有しながら、分からないことを聞いたり、気をつかわずに話せる場として、令和4年度「港北つなぎ塾」を開催いたします。

参加団体として、地域のチカラ応援事業補助金交付団体、後援事業団体、まちの先生、区民活動支援センターの登録団体、区民利用施設を考えており、同じ目線で交流を深め、お互いの活動を知り、得意分野を持ち寄ることで、各団体が抱える課題の解決、運営者の負担軽減、やりがいの実感を高めながら、団体のスキルアップや新たな人材の発掘や育成につなげていければと考えております。

以下のとおり開催しますので、ご多用のところ恐縮ですがご出席くださいますようお願いいたします。なお、お手数ですが8月31日（水）までに、同封の「出欠連絡票・困っていること・情報交換したいこと（アンケート）」のご提出をお願いいたします。

※下記メールアドレスまたはFAXでご提出をお願いします。

第1回

日時：令和4年10月6日（木）14:00～16:00（受付：13:45～）

会場：菊名ウォータープラザ402, 403会議室

横浜市港北区大豆戸町155（別紙会場案内図をご参照ください。駐車場はございませんので、区役所駐車場等のご利用をお願いいたします）

講師：山路清貴氏（地域のチカラ応援事業推進懇話会座長）

※ 第2回については、第1回の内容を踏まえ11月の開催を予定しております。

担当 港北区地域振興課地域活動係
上野 三木 横溝
〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町26番地1
Tel : 045-540-2247
Fax : 045-540-2235
メール ko-chikara@city.yokohama.jp

I : 第 1 回の内容

1. 第 1 回の次第

令和 4 年港北区つなぎ塾 次第

令和 4 年 10 月 6 日 (木) 14 時～16 時
@菊名ウオータープラザ 402, 403 会議室

- 1 挨拶：地域振興課長
- 2 まちの先生紹介：上州亭 楽々（じょうしゅうてい らくらく）（落語）

※いろいろな知識・経験・技能をお持ちでボランティア活動に意欲のある方に「まちの先生」として登録していただいています。

- 3 はじめに：地域力推進担当係長
- 4 講演：山路清貴氏（（地域のチカラ応援事業推進懇話会座長））

【休憩：10分】

- 5 団体さんPR：各団体（2分）
- 6 つながり事例発表： 男の3Gプロジェクト&100スマイル
- 7 総評： 山路清貴氏

<資料>

- ・資料 1：「アピールポイント・情報交換したいこと」リスト
- ・資料 2：アンケート



2. まちの先生紹介；上州亭楽々（落語）



お客様に楽しんでいただく落語がモットーです。落語家とマジシャンの二刀流で活動していますので、イベントの規模・内容などお気軽にご相談ください。落語おわりに着物にたすき掛けで南京玉すだれ、マジックを演じたりもできます。

川崎・横浜地域を中心に活動しています。地区センター、コミュニティハウス、ケアプラザ、自治会町内会などのイベント・自主事業に出演しています。

(港北区役所 HP - 港北区「まちの先生」一覧 より抜粋)

令和4年度「港北つなぎ塾」
みなさんで
つながりませんか！

港北区地域振興課
令和4年 10月6日



「地域の課題の解決や魅力づくり」のために

令和4年度の「港北つなぎ塾」は地域のチカラ応援事業補助金交付団体・後援事業団体を中心に、区民利用施設や区民活動支援センターの登録団体、まちの先生が同じ目線で交流を深め、お互いの得意分野を持ち寄ることで、各団体が抱える課題解決を図り、新たな活動の創出や担い手の発掘・育成を進めていきます





**みなさんの活動は港北区の宝物です！
一人ひとりが貴重な地域資源！**

その1 「こんなお悩みはありませんか？」

- ・自分たちの事業で手一杯
- ・PC に詳しい仲間がいたらいいにゃー
- ・より多くの人に自分たちの活動を知ってもらいたい
- ・ワークショップを開催して、新しい仲間を増やしたい
- ・活動の場所を探している



他団体のみなさんと一緒に取り組むと、横のつながりもできるよね！

その2 「こんな関係っていいよね！」

- ・今年度ご縁があり、一緒に補助金の交付や後援を受けることになった団体さん同士が、課題やお悩みを共有しながら、分からないことを聞いたり、気をつかわずに話せる機会があるっていいよね！



お互いの活動を応援する関係っていいよね！

ご清聴ありがとうございました。

令和4年 港北区つなぎ塾

《これからの時代の地域まちづくり》

令和4年10月6日

横浜市まちづくりコーディネーター
山路清貴

1. コロナ禍でも元気な地域活動

●ラジオ体操の特性を生かす



南区蒔田公園でのラジオ体操
(タウンニュース)

【屋外】

- 換気のよい屋外で行う
- 熱中症の心配が少ない時間に行く
- 健康になれる
- ソーシャル・ディスタンスがとれる

【気楽】

- わざわざ感がない
- 組織が堅苦しくない
- いつでもやっている
- 余分な話をしなくてよい
- 短い時間で済む

【身近】

- 身近な場所で行われる
- 誰でも参加できる
- 比較的少人数
- 意外と友達(知り合い)ができる

【屋外】 五感で感じる環境を取り戻す

- 音（虫の音、サウンドスケープ、等）、匂い・香り、手触り（暖かさや冷たさ）、味わう、…。

■「つるみまっぷ」のプロジェクト（鶴見区寺尾地区）

夜の獅子ヶ谷市民の森を歩いてみませんか。

てらお「福まち」協議会 & てらおまっぷ 共催

夜の てくてく おさんぽ

日時：6月13日（金）18:30～20:00 荒天中止

定員：15組 参加費：1組 100円

集合場所：師岡コミュニティハウス

（トレッサ横浜 南棟3階）



夜のてくてくおさんぽ



秘密基地
づくり



落ち葉で遊ぼう プロジェクト

【気楽】 子ども、若者、障がい者、高齢者、誰もが主役になれる、期待される



■小学生から参加する日下未来カフェ＝地福計画地区懇談会の拡大版

【身近】 小規模に、繰り返し、身近なまちを楽しむ

■羽沢稻荷広場(民有地)の自主整備と活用
(西区羽沢西部自治会)



炊き出し訓練を兼ねた餅つき会

■私設地域資料室(江ヶ崎町)



■ミステリーツアー(江ヶ崎町)



サンマを焼く会



2. 「地域の宝」を活動の真ん中に置こう

●地域の宝 その1＝地域の子ども



保育園で遊ぼう
(港南区野庭をあ・じ・わ・う)



だがしや楽校
(港南区野庭をあ・じ・わ・う)



●地域の宝 その2＝地域の歴史や年中行事



私設地域資料室(鶴見区江ヶ崎町)

●地域の宝 その3＝地域の食



夢やさい
(東久保夢まちづくり協議会)



配食サービスを通じた見守り
(NPO法人)積み木(栄区)

5. 参加団体紹介 ①. 事前アンケート

出欠連絡票

1 出欠 (どちらかに○をつけてください)

出席

欠席

2 出席者 (上限2名まで)

団体名・個人名・施設名:

氏名:

氏名:

困っていること・情報交換したいこと(アンケート)

今後の参考にさせていただきますので、ご記入をお願いします。

例えば

- ・発表場所を探している
- ・もっとチラシを素敵にしたい
- ・ワークショップを開催して、担い手につなげたい
- ・多くの人に自分たちの活動を知ってもらいたい
- ・PCに詳しい仲間を探している
- ・活動の負担を軽減させたい

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

■事前アンケート回答一覧

	団体名	アピールポイント	課題・困っていること	情報交換したいこと
1	しろさと絆プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回のイベントの存在を地域に周知できた ・老若男女の方々に協力をいただいた ・まちの活性化に多少は役立てた 		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも絆を保てた
2	ひっとプラン 港北新羽地区 推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーで役割分担を行い、活動の負担を軽減している。 ・幅広い年代まで情報が伝わるよう、SNSのみではなく紙媒体も駆使し発信していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・情報をどのように工夫しながら収集しているかを知りたい。(どのような情報が求められているか？)
3	居場所づくり 濱なかま	<ul style="list-style-type: none"> ・発想力が豊かでチャレンジ精神旺盛な仲間が集まっている (ゆめなかま発行、まち普請、ハマボノ、公式ローカルウェブ構築) ・スタッフがさまざまな専門性をもっておりそれらを連携させた活動を作ってきている (医療・心理・福祉・障害・ITなど) ・活動地域「外」に住む人がスタッフの半数以上を占める！けれど拠点地域で熱く活動している！ ・ゆめがでっかい！！ ・やることがいちいちトンガッてる ・逆境こそプラス思考！アイデア満載で切り抜ける突破力がある ・「わたしじつは・・・」というスタッフが多数。多彩で多才！ ・着実に、ゆめに近づいている！ 		
4	NPO 法人スーリールファム		<ul style="list-style-type: none"> ・ITスキルが不足している。メールマガジンを発行したいが、できない。 ・講座やワークショップ等の開催場所を探している ・活動費用捻出のため、事業を収益化したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業と連携したり、活動支援を受けたい
5	コロナ対策プロジェクト in 港北		<ul style="list-style-type: none"> ・開催場所について ・机等の備品について 	
6	港北すみれの会	<ul style="list-style-type: none"> ・10月秋の文化祭(綱島地区センター)に出場しアピールする。 ・タウンニュースに掲載していただき宣伝する。 ・地区センター等でチラシ配布する。友人紹介。 ・以上、この秋の募集、宣伝の計画です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で会員の出席が激減してしまいました。高齢者、障がい者等、2～3人での参加が多いため、お休みが加速します。改めて募集に全力をあげます。 	

	団体名	アピールポイント	課題・困っていること	情報交換したいこと
7	ひっとプラン 港北樽町地区 推進委員会	・特になし		
8	小さな丘のメ リークリスマス 実行委員会			<ul style="list-style-type: none"> ・今はクリスマスイベントに参加していただけるボランティアの方々を募集しているところです。 (お世話して下さい GP) ・コロナの先行きが不安定なので、お誘いする時は「開催できなくなる場合もあります」と文言を添えています、広く募集を募ることはひかえています。 ・開催内容の詳細が見えてくれば(イベント内容)「この部分のお世話係をお願いしたい」とかお声掛けも具体的にできるのですが、クリスマス間近になってからでも「手伝っても良い」と言ってもらえる方が現れると嬉しいです。
9	港北えがおま つり実行委員 会	<ul style="list-style-type: none"> ・多岐にわたるメンバーが個性を発揮している ・ウェブ発信 インスタ ツイッター FB You Tube メールなどで積極的発信とシェアができています ・デザイナーによるチラシ制作を内側でお願いできる ・班分けを行い当日も30名以上の近いお手伝いと集客に寄与してくれた ・オンライン会議を日付固定で開催した ・専門的なスタッフが無償で活躍した ・地域の他の活動団体をつなげていききっかけ作りが実績となった 		
10	特定非営利活 動法人バンブ ーまなび塾		<ul style="list-style-type: none"> ・当法人は不登校、ひきこもその他の生涯を抱えた子ども若者への支援をしているこの活動を港北区内の小学生、中学生に知ってもらい、利用していただきたいと思っているが、広報がうまくいっていない。 	

	団体名	アピールポイント	課題・困っていること	情報交換したいこと
11	港北区民俗芸能保存会	<ul style="list-style-type: none"> ・港北区内唯一の民俗芸能団体の連合体 ・1回/年 合同の成果発表会を「港北区民俗芸能のつどい」として開催している。令和4年度は、6/19(日)に開催し、出演者を含め約350人が鑑賞した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は、活動の継続と保存会登録団体の増加をどう図るか、参加者数の増加の手立て。 	
12	港北ふれあいストリートダンスまつり実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・発表場所がある・音、振付が作れる・ワークショップができる 		
13	大倉山秋の芸術祭実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・大倉山記念館を開催場所として毎年開催。今年で38回目を数える。今後も次世代に受け継いでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代への世代交代の必要を感じている。アイデアを募集中。 ・地域の文化祭として、広げていきたいと考えている。 	
14	産前産後ハンドレッドスマイル		<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット設置場所を増やしたい。配布場所のご協力をお願いしたいです。こども家庭支援課の親子対象の事業の「赤ちゃん会」での配布をしていただくとありがたいです。 ・隙間時間を使って少しずつ協力してくれる人が増えたらよいと思います。ボランティアさん大募集。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人に自分たちの活動を知ってもらいたいです。妊婦さんやお子さん連れのママをみて困った事があれば「ハンドレッドスマイルへ」と私たちに繋げていただけると嬉しいです。 ・無料イベント参加者やイベント情報募集中
15	NPO法人街カフェ大倉山ミエル		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい事業、例えば子ども自由な第3の居場所などをやりたいと考えても、港北区は家賃が高く場所を見つけることができない。 ・コロナ禍で、区役所の区政推進課、子ども家庭支援課、高齢障害の担当者などと、顔の見えるつながりが作りにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の活用について
16	芹沢銈介綴帳プロジェクト		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度末に『綴帳から見える港北区の歴史』というタイトルで冊子を発行する予定であるが、その有効な活用方法について知りたい。 ・冊子発行の編集作業ができる人材やノウハウを求めている。 	
17	たまたまばこ	<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居を演じることにより、港北の面白さ、生活を知らせられたら。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい人を入れたい。 	

	団体名	アピールポイント	課題・困っていること	情報交換したいこと
18	男の3Gプロジェクト		<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人に自分たちの活動を知ってもらいたい。・料理教室が開催可能な場所を探している。 	
19	太尾宮前地域まちづくり運営協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の企業、保育園・学童・子育て支援施設と多様な子どもと関わる団体が所属しており、連携によって、地域の方に開いた企画が開催できる。発表。イベント開催場所提供をいただいている。 ・企画を通して、有事の際に生きる顔の関係性を目指しており、防災訓練を合同実施している。 ・企画を通して、子ども達の幼児期～学童期の成長を共有、見守れる機会となっている。 		
20	港北ボランティアガイドの会	<ul style="list-style-type: none"> ・今年10周年を迎えた街歩きガイド団体です ・蓄積した区内およびその周辺の歴史、文化遺産、自然などに関する情報・知識を多く所有している ・その知識を生かし、点でのガイドではなく、点と点を結び線での、時には面としての街歩きガイドをする 		<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会が発行しているウォーキングマップ、福祉保健課が発行している「ウォーキング手帳」、支援センターの「花と木のウォーキングマップ」発行に協力 ・今後、他団体とのコラボで街歩きができればと考えている
21	SOW（ソウ）	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の親子の居場所をしています。小学生低学年にも参加しやすい雰囲気と内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人に活動を知ってもらいたい ・活動が当事者の母たちのボランティアで成り立っているので、持続可能な仕組みにするには。 ・同じ開催で、親の活動・こどもの活動を緩く分けたいが、担い手不足が課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・母たちの世代交代をうまく進める方法（常連さんが運営に入ってもらうには） ・なかなか家から出られないこどももいるので、家にも支援が届く仕掛けづくりどうすれば
22	菊名地区センター	<ul style="list-style-type: none"> ・発表場所がある ・地域の活動について情報発信できるスペースがある 		<ul style="list-style-type: none"> ・乳児～高齢者まで幅広い世代の方が集うため、偏りなく学び・趣味・娯楽の場を提供できるよう情報を収集したい。
23	師岡コミュニティハウス	<ul style="list-style-type: none"> ・トレッサ横浜の駐車場が利用できるので、広域から集客可能。施設内でWifiが利用できる。活動場所がある 		
24	城郷小机地域ケアプラザ			

	団体名	アピールポイント	課題・困っていること	情報交換したいこと
25	大倉精神文化研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史・文化に関する様々な問い合わせに応じたり、情報の蓄積がある。 ・所在地は市指定有形文化財で大倉山の象徴的存在、文化活動の拠点にもなっている大倉山記念館のなか 		<ul style="list-style-type: none"> ・居住地や年齢等の制限なしで利用できる図書館がある ・ホームページや SNS でも情報発信
26	こうほく区民施設協会			
27	虹色畑クラブ			

②. 団体自己PR

	団体名	当日PR
1	しろさと絆プロジェクト	・コロナ禍でできたプロジェクト。生活が一変した。ケアプラザコーディネーターと青少年指導員話し合った。紙を折った。95 団体に協力をいただいた。7月8月鶴。「楽遊学」299号掲載をごらんください。コロナ禍だからできたこと。
2	ひっとプラン港北新羽地区推進委員会	・新羽駅から日産スタジアム。地域課題は町内会に入っていない地域がある。情報発信していく、着信主義。
3	居場所づくり濱なかま	・城郷地区で居場所づくりをしている。チラシを3点ご覧ください。
4	NPO 法人スーリールファム	・女性のキャリアを重ねた人が集まって発信。中区のお祭り、マルシェなどをしている。にぎわいを創出している。横浜市で登録し、中区で活動していたが、港北区からもっと幅を広げていきたい。
5	コロナ対策プロジェクト in 港北	・一昨年のコロナ禍、生活が大変になっているということで、イトーヨーカ堂の前で食糧支援などを行ったところ 100 人ぐらい集まった。お米もフードバンクから、と私たちから各 100 キロ集めた。区役所でテーブルを借りたい。
6	港北すみれの会	・24,5 年前から歌と踊りの会を始めた。4 年ほど前からミュージカルも始めた。ミュージカルに興味をもっている方が意外に多いということが分かった。高齢者が多い。小学生の子どもも2年近く休んでいると中学生になった。最近、再開した。
7	ひっとプラン港北樽町地区推進委員会	・活動の目的は「ひっとプラン」をどのように推進していくか。ホームページやLINE 掲示板を利用して会員を増やそう。7月夏祭りこども 300 人くらい集まった。10月体育祭9町会ある中で、「樽町ふれあいフェスタ 2022」自治会単位ではなくボランティア募集して 20 人集まり。スポーツ推進員、青少年指導委員、自治会町内会連携して顔を合わせる機会を作った。
8	小さな丘のメリークリスマス実行委員会	・小さなこどもが対象。近くのおじいさんおばあさんも来られて 1,000 人くらい大倉山記念館に集まった。運営はボランティア。中学生→高校生→大学生とだんだん年齢に拡がりがあった。
9	港北えがおまつり実行委員会	・公会堂で5月にシニアのおまつりを実施した。舞台俳優、医師、体操のサミットも。IT 全ての SNS を行った。打ち合わせは Zoom。当日は 400 人くらい集まった。
10	特定非営利活動法人バンブーマナビ塾	・大曾根小学校近くにある。自立支援、学習支援を中心。居場所も。わくわくするような体験。理科実験、星を観る会、縄文土器を作ったり、フラワーアレンジメント、野菜を収穫、食事。コロナで引きこもっている人の家庭訪問もしている。
11	港北区民俗芸能保存会	
12	港北ふれあいストリートダンスまつり実行委員会	・ヒップホップ。健常者と障がい者とともに。3年ぶりにトレッサでイベント開催。ダンスでお役に立てることがあればお声掛けください。
13	大倉山秋の芸術祭実行委員会	・会場は大倉山記念館。大倉山記念館の説明。今年で 38 回目。地域の芸術祭。地域で伝わる文化芸術を伝えていきたい。ホームページも作りました。
14	産前産後ハンドレッドスマイル	

	団体名	当日PR
15	NPO 法人街カフェ大倉山 ミエル	・ 5年間で卒業。助成金などで冊子も作りました。2010年に立ち上がって、だんだん広がってきた。マイナス1才から101才まで。活動を広げてきた。子ども食堂、シニアサロン。子どもたちが魚釣りに行きたいといったので鶴見川に行ったが、地域の人にいろいろ教えてもらった。常設カフェなので、いつでもつながっていききたい。港北区子ども若者支援をしている中で、メーリングリストで作っているのだから情報共有している。
16	芹沢銈介緞帳プロジェクト	・ 公会堂の緞帳「陽に燃える丘」イベントを通じて伝えていこうと企画し、コロナ禍で中止を余儀なくされたがやっと東京民芸館などいろいろつながった。
17	たまてばこ	・ 港北区は民話が豊富なので、文献などを調べ、脚本を書き、素人でも手作りができる。コロナ禍なので、保育園や高齢者施設への上演ができなかったが、秋の芸術祭やきくなみんなのひろばでも上演できた。
18	男の3Gプロジェクト	
19	太尾宮前地域まちづくり 運営協議会	・ 太尾宮前地区で10年前くらい前から、みんなで何かやろうと集まってイベントを実施。発表をお互いに見ることで繋がっていることを体感した。
20	港北ボランティアガイド の会	・ 12年前に区役所が募集したまちあるきガイドから始まった。自分の住んでいることを以外の地区の魅力をみんなに伝えていこうとしている。地域の宝はこども。各地区センターなどで子どもたちと歩いて学んでいきたい。
21	SOW (ソウ)	・ 学校に行きづらい子と親。当事者の親同士で立ち上げた会。居場所を開いています。たまには遠足で工場見学なども。不登校、学校にいなくても大丈夫だよと思ってほしい。そんな大人が周りにいたらいいなと思っています。

6. つながり事例紹介 ①. 男の3Gプロジェクト&ハンドレッドスマイル

●シンプル&手抜きな男の料理教室 9/18（日）10：00～12：30

@ハンドレッドスマイル Home

主催：ハンドレッドスマイル（内田さん、宮崎さん）

講師：黒須 悟士（男の3Gプロジェクト・代表）

参加者：20代～30代のパパさん3名

見学：地域力推進担当

【ハンドレッドスマイル】

- ・産前産後のママにとって、パパの支援が日頃から必要だと感じていた。
- ・産前産後のママさんたちへの支援活動をしているが、黒須さん（男の3Gプロジェクト）を知り、区役所の地域のチカラ応援事業を通しての紹介から、男の3Gプロジェクトを通じて男性の参加につながった。

【男の3Gプロジェクト】

- ・男性の家事・育児・地域参加が課題になっていると感じ、「男の料理教室」を度々開催。
- ・区役所の地域のチカラ応援事業を通しての紹介から、広報や場所の提供、ターゲット層等目的が共有でき、ハンドレッドスマイルとのコラボイベントとなった。

《当日の流れ》

オリエンテーション（ハンドレッドスマイルより）

- ・黒須さん（男の3Gプロジェクト）を知ったのは区役所の地域のチカラ応援事業を通しての紹介
- ・ハンドレッドスマイルは2015から活動を始め、今後はITを使った産前産後のママのケアを進めていきたい

メニュー

魔法のトマトソース、ペペロンチーノ、チキンステーキ

内容

- ・おいしいパスタのゆで方のコツ
- ・ゆで汁の活用
- ・簡単なペペロンチーノソースの作り方とその応用
- ・鶏肉の下処理でおいしくするコツ
- ・鶏肉を誰でもおいしく焼くコツ
- ・塩は肉の重さの1%
- ・食談義で盛り上がる（スーパーでの買い物について）

その他

ハンドレッドスマイルより、休日にお母さんに作ってほしい、産後の大変な時こそ「お父さん」の協力が必要→後々の夫婦関係に影響を与える（奥さんはずーっと覚えている）

次回は3月にお出汁の予定

【地域力推進担当からの感想】

- ・ハンドレッドスマイルにとって男性講師による料理教室ということで、お父さんの参加につながった。
- ・参加者の中でSEさんがいたことで、ハンドレッドスマイルの課題であるIT人材の確保となる可能性がでてきた
- ・最後は、自然な流れでお父さん達の育児相談が始まった
- ・男の3Gプロジェクトにとって、活動を知ってもらうことができ、参加者から共感を得ることができた。今後、男の3Gプロジェクトの参加につながっていく可能性があるかも？
- ・参加者の皆さんが「自分も男の3Gになれるようにやっていきたい！」との感想があった
- ・お父さんたちの産前産後のお母さんへの積極的なお手伝いに対する思いが伝わってきた
- ・産前産後のお母さんの支援活動団体と、男性の自立に向けた活動団体という、一見つながりがないような団体さん同士が、ちょっとしたきっかけでつながったことで、新たな活動が生まれ人材発掘の可能性を感じた。



「港北区地域の子カラ応援事業(地域元気づくりコース)※」の申請団体の一つ「男の3Gプロジェクト」。
家事、育児、ビジネス、のすべてに含まれる「ジ」の音を3つ合わせて3G(スリージー)ということです。
実は男性は家事や育児、そして地域活動の側面に高い潜在能力がある！ということ。家庭も仕事も地域も、
そして自身の人生も発展していく男の3Gプロジェクトの活動について、代表の黒須さんにお話をうかがいました。

地域社会と人生の活性化を図る

地域社会に人脈がひろがる『男の料理教室』

始まりは、世の中にまだ「在宅勤務」の概念も「イクメン」という言葉もなかった2005年、自身の起業をきっかけに、出勤する妻に代わって日中の家事、育児と、ビジネスの同時進行が始まったことでした。保育園の送り迎えでお母さん達とのつながりもでき、それまで寝に帰るだけだった地域に知らない世界(コミュニティ)があったことを発見したといいます。女性の社会進出と男性の家事・育児・地域参加のギャップを目の当たりにし、また定年後の男性の地域参加が課題になっていることも気になり、男性にそれらに参加する場を提供する活動として、2019年「男の3Gプロジェクト」を立ち上げました。中でも料理は、家事・育児には欠かせないスキルであり、食べる時には、家族をねぎらったり友人と語ったりと、人と人とのつながりをつくるものでもある、という着想から、地域の男性向けに『男の料理教室』を実施します。子どものつながりから、野毛でイタリアンレストランを営むプロの料理人の浅賀さんが同じ自治会であったことが分かり、料理教室の講師を引き受けてくれることに。20代～70代の男性が集まり、また女性の参加もOKにして、皆で作って皆で食べるという機会を重ねるごとに、地域に顔が繋がっていく手ごたえがあったといいます。



パパ友の
黒須さん(左)と
浅賀さん(右)

男の3Gプロジェクト

https://peraichi.com/landing_pages/view/3gproject/

料理教室を手伝ってくれるシェフ、
畑を提供してくれる農家さん、大歓迎です！



※「港北区地域の子カラ応援事業」は、新しい生活スタイルの提案を盛り込んだ皆さんのアイデアや思いを活動につなげ、地域まちづくりや地域住民を元気にする、活動団体の取組を応援します。(地域元気づくりコース他、既に募集を終了したものもあります。)
詳しくは▶地域振興課地域力推進担当 TEL 045-540-2247 まで

コロナ禍で迫られた、つなぎ直しの『収穫体験』『BBQ』

順調だった料理教室でしたが、折からの新型コロナウイルス感染拡大の影響でリアルでの実施が難しくなり、2020年に「ライブキッチン」としてオンラインでの実施に切り替えます。オンラインでは調理の手順はとて分かりやすいと好評でしたが、人と人がつながる要素は乏しくなっていました。また感染が下火になっても家から出ないスタイルが生まれていることも気になり、とにかく皆に地域に出てきてもらうこと、地域社会へのつなぎ直しの必要性を強く感じたそうです。地元の日吉地区は普段暮らす駅近の繁華な街から少し移動しただけで、緑豊かな^{ひろの}広野に出ることができます。この立地を生かし、マイクロツーリズム(自宅から小一時間の移動で安全安心に楽しめる観光)の切り口で、地域の保育園・幼稚園等の親子や、これまでの料理教室の参加者に向けて、屋外活動であるミニトマトの『収穫体験』を企画・実施しました。料理教室も、ライブキッチンから屋外バーベキューへと形式変更し、人と人との関わりを復活させました。



←
マウロの地中海トマト
サンマルツァーノリゼルバ

代表の黒須さん(左)
生産者の荻原さん(中央)
スタッフさん(右) →

収穫体験の原型は事業のESG(環境Environment・社会Social・ガバナンスGovernanceを重視した企業戦略)でした。地域には、個人、家族、農家、農産物、企業、商店、商品、学校、行政等々、一つ一つの資源があり、各々に価値を持っています。それらが縦横無尽につながること、新しい機能や課題解決への糸口も生まれるのではないかと、例えば「港北区地域の子カラ応援事業」への応募によって行政とのつながりができたことで、活動がひろがった、という黒須さん。「男の3Gプロジェクト」の特徴でもある複眼的な立ち位置で、人と地域の活性化が続いていくことを目指しています。

初めての妊娠、出産、子育て、新米ママにとって不安はつきものです。産前(妊娠中)から産後まで継続的にサポートすることで、新米ママの「不安」と「不便」を「安心」と「便利」に変えて、何でも相談できるつながりを作り、皆に笑顔運びたい！という思いで集結したのが助産師中心の専門家集団「ハンドレッドスマイル」です。

コロナ禍で孤立しがちな妊婦さんたちをサポートしようと、新たに「オンライン両親教室」を開始し、産前産後の生活についての講義や、助産師に直接質問できるコーナーなど、ひとりひとりをきめ細やかにサポート。コロナ後を見据え、ICTを使った新たなサービスも動きだしたハンドレッドスマイル。代表の内田さんにお話を伺いました。



未来のママとママに関わる人に100%の笑顔届けたい

出産という大仕事を終え、ママの身体はへトへトなのに、実家が遠方であったり、夫が仕事で休みが取れず、産後数日からワンオペ育児が始まることも稀ではありません。当初、代表の内田さんも、「それは仕方がないこと…」と思っていたそうです。ところが、自らの出産・子育てを通じ産前産後の継続的なサポートの必要性を痛感します。

産前産後のママの悩みは十人十色。きめ細かなケアが求められるのに、個々の要望を賄いきれていない現実。初めての子育ては、わからないことだらけなのに、親は高齢で頼れないし、周りに知り合いもない。サポートを必要としているのに誰にも頼れない。心も身体も不安定になる中で、どうやって子育てをしていけばよいのだろうか。同じような悩みを抱え困っているママは他にもいるに違いない。何か支援ができないのだろうかと考えていく中で、助産師の宮崎さんとの出会いをきっかけに、産前産後ハンドレッドスマイルの活動がスタートします。

ハンドレッドスマイルは、助産師中心の専門家集団。保健師、管理栄養士、家事サポート(ドゥーラ)、ヨガインストラクターが、産前産後のママの心と身体と生活の変化に寄り添い、心身のケアや子育て相談などを気軽に相談、サポートしてくれる強い味方なのです。



(オンライン両親教室の様子)

また、ハンドレッドスマイルでは、子育てが一段落した専門職や資格を持つ女性にも、サポーターとして活躍の場を提供したいと考えています。ICTの活用で、子育てに関わる専門家たちをひとつにまとめネットワーク化し、必要な時に必要なサポートを“ワンストップ”で選んで受けることができるプラットフォームをスタートさせます。

専門知識や子育て経験を持つ人たちが連携し、産後のケアや子育てに継続して関わることで、ママや子育て世帯の不安を安心に変え、みんなに笑顔届けたいことがハンドレッドスマイルの目標です。

産前産後の子育てをICTで解決！

ハンドレッドスマイルが提案する **プラットフォーム**

サポーター(専門家・シッター・子育て団体)とママ(ペアレント)の架け橋を担い、子育て情報の提供ができる。安心便利なプラットフォームを稼働させます！

<https://100smile.jp/>



(画面イメージ)

Ⅱ：第2回の内容

1. 第2回の次第

令和4年11月10日(木) 14時～16時
@菊名ウオータープラザ 402, 403 会議室

- 1 挨拶：地域振興課長
- 2 団体さんPR：港北民俗芸能保存会、虹色畑クラブ
- 3 前回の振返りと第2回の進め方（山路清貴）
- 4 つながるための意見交換会

途中【休憩：10分】

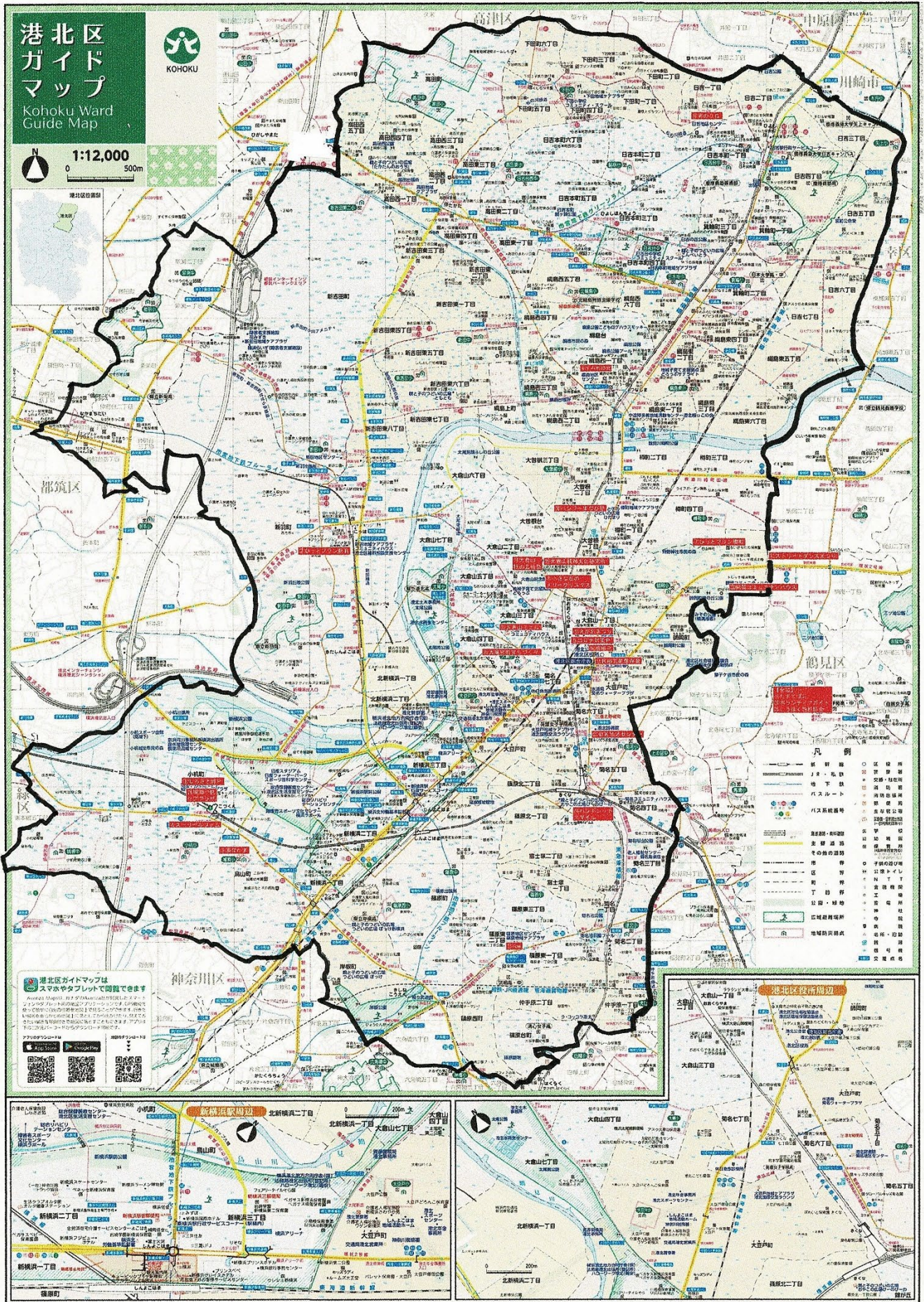
- 5 総評： 山路清貴氏
・これからの時代の地域まちづくり その2
- 6 おわりに：地域力推進担当

<資料>

- ・資料1：マッチング一覧
- ・資料2：アンケート集計表
- ・資料3：研修資料



2. 参加団体の拠点マップ



3. 参加団体のマッチング一覧（もっと知りたい／つながりたいアンケート）

下の一覧表は、第1回の各参加団体自己PRを聞いて、「もっと知りたい／つながりたい」と思った団体をマークいただいたアンケート結果を示したものである。

横計で各団体がマークした数、縦計でマークされた数を集計している。因みに出席した団体でマークされなかった団体は一つもない。

そして黄色でマークした所が相思相愛の団体（因みに22件）を示している。

団体名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
	しらすと神プロジェクト	ヒットプラン 港北新羽地区推進委員会	居場所づくり 浪なかま	NPO法人 スーリール	コロナ対策 プロジェクト	港北すみれの会	ヒットプラン 港北柳町地区推進委員会	小さな丘のメリクリ	港北えがおまつり実行委員会	特定非営利活動法人 港北民保	港北ふれあ いストリー	大倉山秋の芸術祭実行委員会	産前産後ハンドレッド	NPO法人 カフェ大倉	序次継介橋プロジェクト	手づくり紙芝居 たまたま	真の3Gプロジェクト	太尾雷前地まちづくり運営協議会	港北ボランティアガイドの会	SOW (ソウ)	坂名地区センター	朝岡コミュニティハウス	城野小机地域ケアプラザ	大倉精神文化研究所	こうほく区民施設協会	チェックされた数	
1	○		○						○						○											4	
2		○																								3	
3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○						19	
4	○				○	○				○					○	○										9	
5											○				○						○					3	
6							○																			1	
7		○				○		○	○								○					○				7	
8																										0	
9	○	○	○			○						○	○			○	○				○					10	
10						○								○								○				3	
11																										0	
12						○		○	○								○		○							5	
13											○															1	
14								○							○						○					4	
15		○	○	○	○		○	○	○	○			○				○	○	○	○	○	○				14	
16		○													○		○					○	○	○		6	
17						○		○	○	○					○			○				○				9	
18													○	○					○							4	
19																										0	
20	○	○					○								○		○					○				5	
21	○		○					○	○						○							○				6	
22	○	○	○	○		○										○	○	○	○	○			○	○		13	
23				○			○				○											○	○			7	
24																										0	
25																										0	
26	○			○																						2	
	7	7	5	6	5	6	7	8	7	8	1	7	6	5	10	4	8	6	7	6	6	1	2	0	1	0	136

4. つながるための意見交換会の進め方

「ワールドカフェ」の進め方

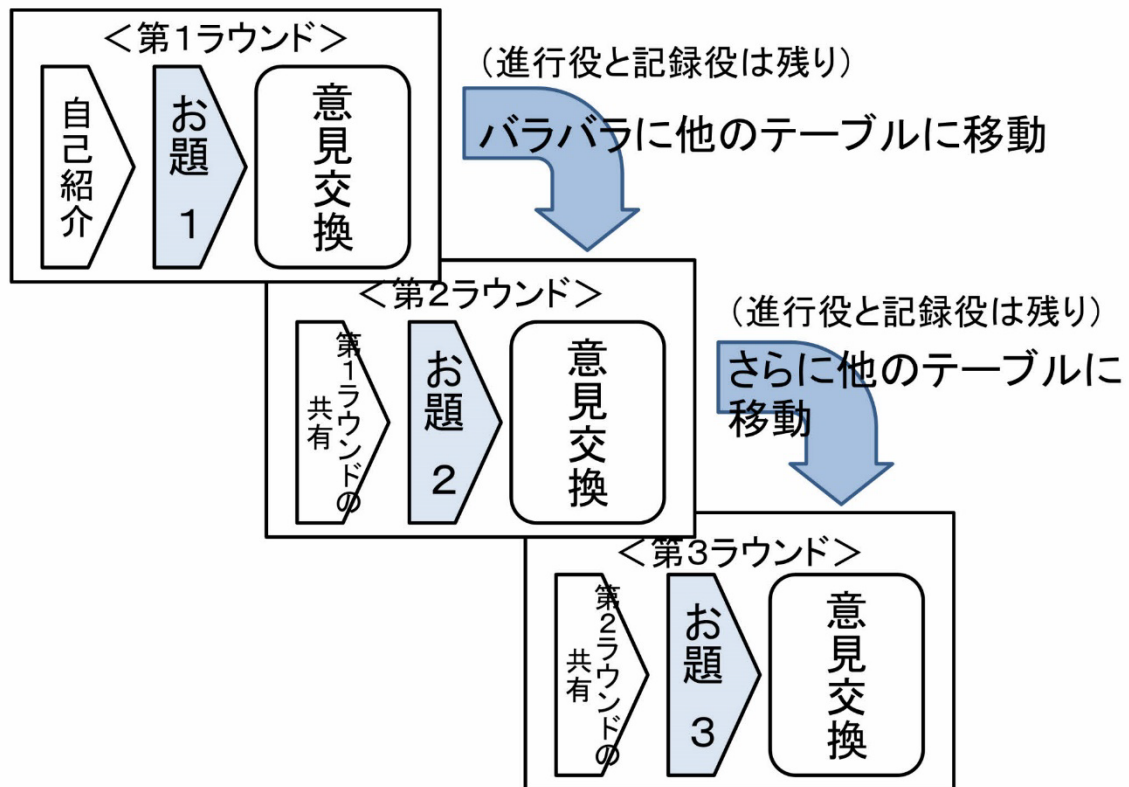


● テーブル上のメモ(一例)



今回は各テーブルに記録係がいます

● テーブル意見交換の進行手順

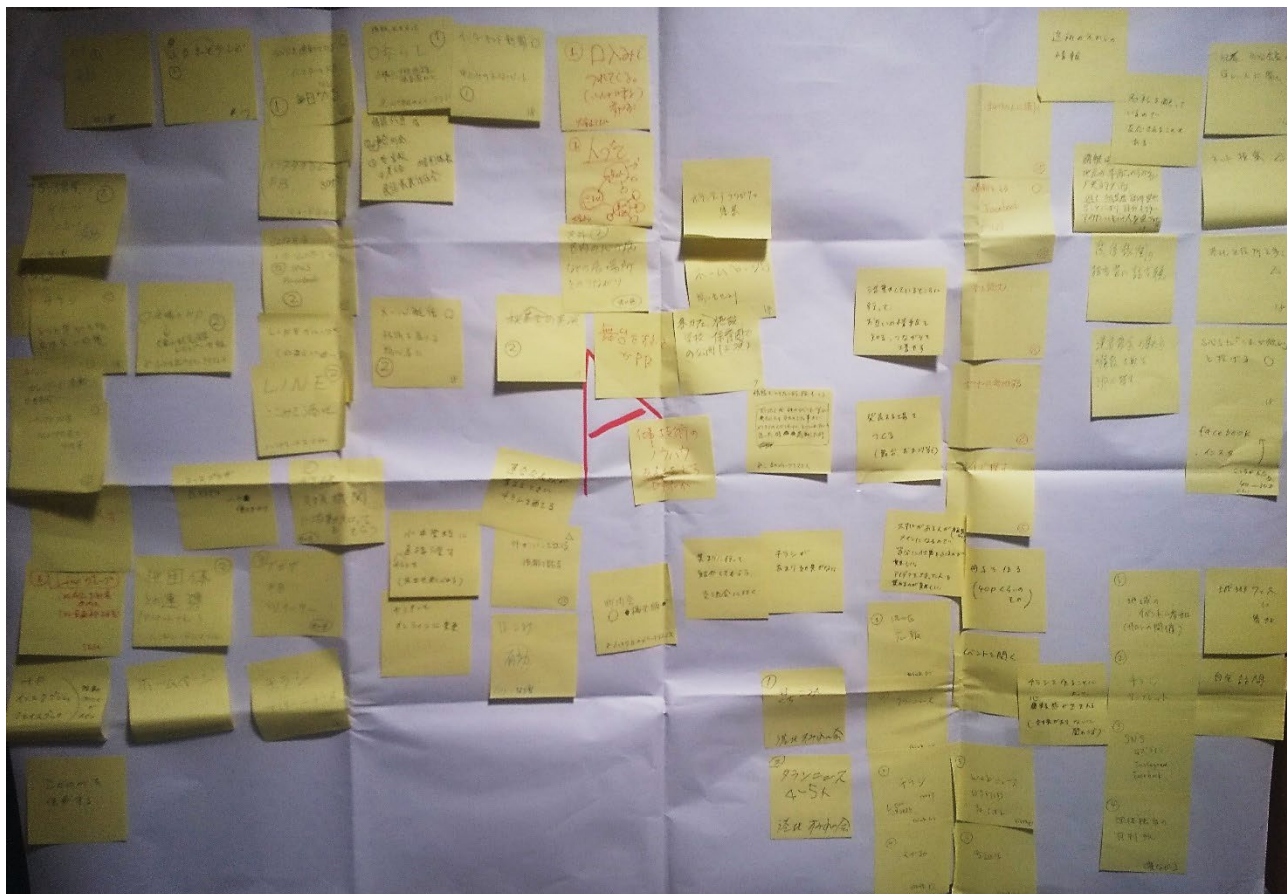


● カフェ・エチケット

- 問いに意識を集中して話し合きましょう
- あなたの考えを積極的に話しましょう
- 話は短く、簡潔にお願いします
- 相手の話に耳を傾けましょう
- さまざまなアイデアの関係を考え、アイデアをつなぎ合わせてみましょう

☆ 司会者が手をあげたら、
あなたも発言をやめて手を上げましょう。

5. つながるための意見交換会での意見 A：情報グループ



《情報グループ》どんな地域情報を得たか／知らせたか？ その工夫は？

<情報を出す方法>

- ・「HP」が有効。
- ・「ふるさとテレビ」。
- ・「SNS」を連動させる。インスタ→FBなどを毎日やる。
- ・「Instagram」「FB」。
- ・「ホームページ」「SNS」「Facebook」など。
- ・「LINE」グループ。ロコミに近い。
- ・LINE「ここみて港北」。
- ・会場のHP。大倉山記念館やドロップの「会報」。
- ・関係機関への「チラシ」「パンフレット」は有効。
- ・「チラシ」。ヒット率が不明。自治会で回覧。
- ・「チラシ」。カレンダーで活動を紹介。
- ・「パンフレット」を作り、出かけた先で渡す。
- ・「チラシ」。近郊の小学校低学年、保育園など。
- ・情報伝達は①区・連合町会、②各学校・老人会の各団体長。
- ・「インターネット新聞。申し込みの主なルート。
- ・「ロコミ」で連れてくる。一緒に来る。

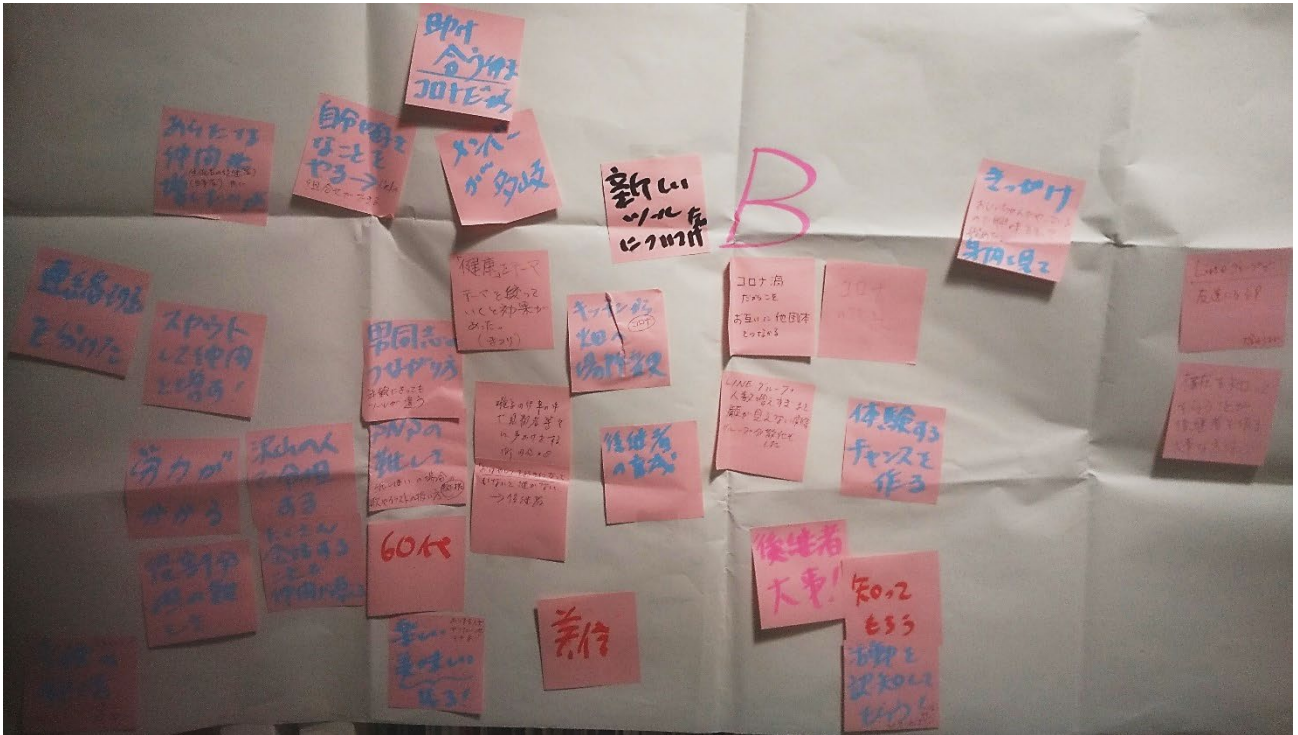
- ・「人づて」
- ・区外や区内の心の病などの「居場所」とのつながり。
- ・「秋芸」での「実演」。
- ・「舞台をする」がPR。
- ・効果わからず。
- ・「LINE グループ」。会全体で220名の内、企画部が26名。
- ・「HP」「インスタグラム」「フェイスブック」。活動報告がメイン。
- ・「Zoom」を利用する。
- ・「ユースプラザ」「区役所」への働き掛け。
- ・「行政」「支援機関」に活動を知ってもらう。
- ・「他団体」（アイネット）との連携。
- ・「ブログ」「FB」「ツイッター」。
- ・「ホームページ」。
- ・「ファミリーニュース」。
- ・「小中学校」に直接チラシを渡す。先生も来てくれる。
- ・セミナーを「オンライン」に変更した。
- ・連合会長が集まる時に「チラシ」を配る。
- ・「外看板」を立てる。「情報」を貼る。
- ・「口コミ」は有効。
- ・「町内会の掲示板」。
- ・「口コミ」。
- ・「タウンニュース」。
- ・「港北区の広報」。

<仕事、技術のノウハウのある人をどう呼ぶか？>

- ・ボランティアつながりの集客。
- ・「ホームページ」。問い合わせ有り。
- ・「各カフェ」施設、「学校」「保育園」での公開（上演）。
- ・活動している所に行って、お互いの情報を知る、つながりを増やす。
- ・ボランティアが他のイベント等に参加したり見たりしたことが、イベントに取り入れたと思った時、感動した。
- ・舞台、お祭り等で発表する場をつくる。
- ・集まりに行って紹介してもらう。交流会に行く。
- ・「チラシ」があまり効果が無い。
- ・スキル（編集など）がある人がメインになるので、等分に仕事を振るのが難しい。
- ・アイデアを持った人を集めるのが難しい。
- ・近所の方からの情報。
- ・まわりの人に聞く。
- ・名札を配っているので反応されることもある。
- ・記者、自治会長など詳しい人に聞く。

- ・「フェイスブック」「SNS」情報をとる。
- ・情報は地元の年配の方から聞く。
- ・歴史的文献。
- ・紙芝居自体を見せることにより、自分も作ってみたいという人を見つける。
- ・ネット検索。
- ・関係機関の担当者に話を聞く。
- ・港北区役所を歩く。
- ・運営資金の集め方等の情報を取るため、HPを探す。
- ・SNSに「これが欲しい」と投げる。
- ・「フェイスブック」の方が「インスタグラム」より30～40歳くらいからの反応が多い。
- ・冊子を作る。40ページくらいのもの。
- ・イベントを開く。
- ・チラシを作ることによって、効果があるなしに関わらず、信頼感が生まれる。
- ・「Webニュース」「日吉新聞」「森ノオト」。
- ・「楽遊学」。
- ・地域のイベントに参加（サロンの開催）。
- ・「城郷フェス」に参加。
- ・自宅訪問。
- ・団体独自の月刊紙。

B：人（参加者）グループ

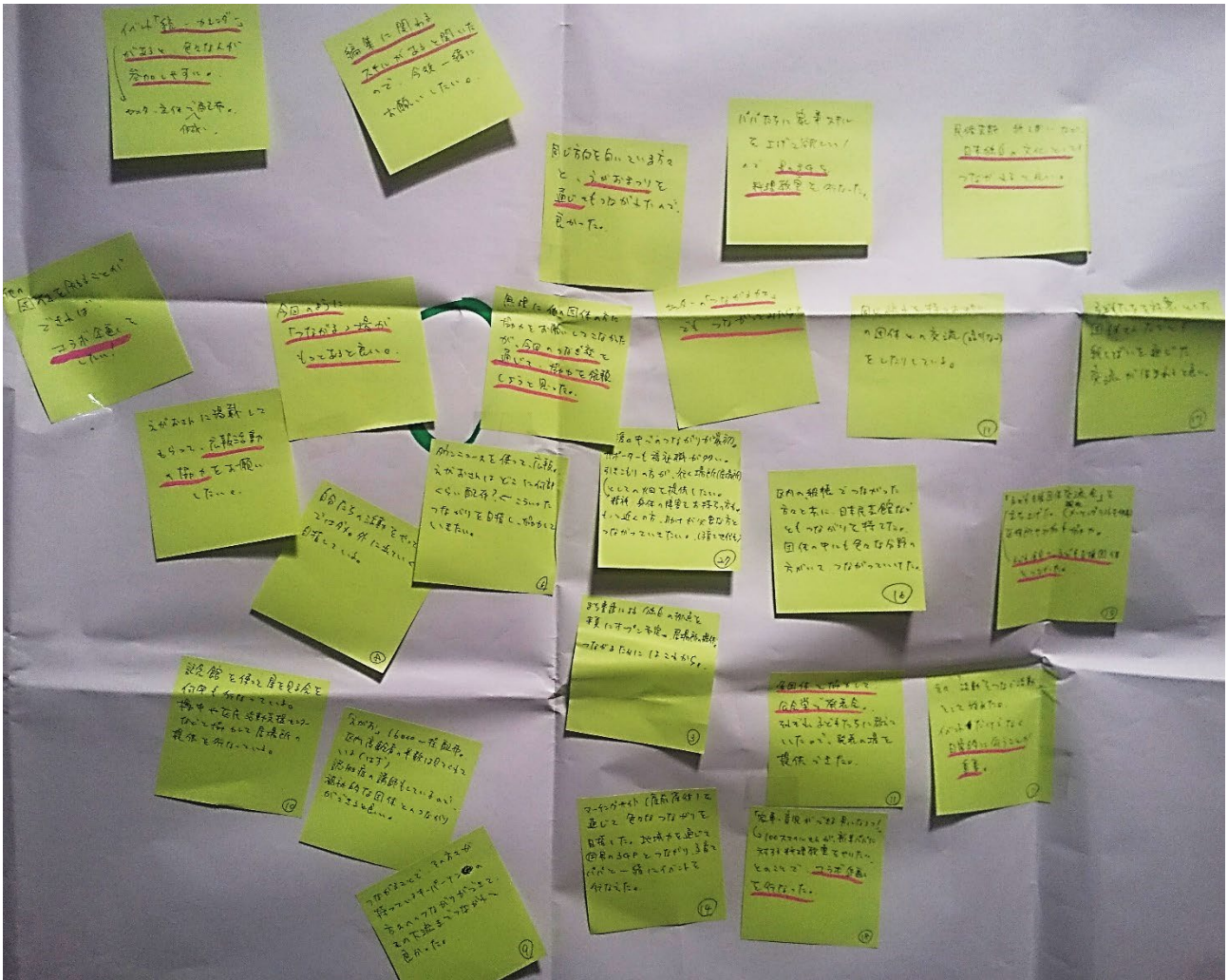


《人（参加者）グループ》どんな新しい参加者を増やしたか？ その方法は？

- ・ 在住者の後継者、当事者ともに、新たな仲間を増やしたいが。
- ・ 自分が好きな事をやる人と人の組み合わせができる。
- ・ コロナだから助け合う仲間。
- ・ メンバーが多岐。
- ・ 新しいツールについていけない。
- ・ 連絡班を分けた。
- ・ スカウトして仲間を増やす。
- ・ 男同士のつながり方。年齢によってもツールが違う。
- ・ 健康をテーマ。テーマを絞っていくと効果があった。（まつり）
- ・ 後継者の育成。
- ・ お囃子の行事の中で見物者等々に声掛けをする。お囃子を好きになっていないと続かない。
- ・ キッチンから畑へ場所変更。
- ・ SNSの難しさ。紙しばいの場合、歌やイラスト（著作権）の扱い方。
- ・ 楽しい、美味しいと集まる。
- ・ 集まる人がやりたいことをやる。
- ・ たくさんの人で分担する。
- ・ たくさん会話することで仲間が増える。
- ・ 労力がかかる。
- ・ 役割分担の難しさ。

- ・子どもたちにとって芸能は学校の部活と同様の感覚。
- ・コロナ禍だからこそ、お互いに他団体とつながる。
- ・LINE グループの人数が増えすぎると、顔が見えない関係に。グループが分散化した。
- ・体験するチャンスを作る。
- ・後継者は大事。
- ・知ってもらおう。
- ・活動を認知してもらおう。
- ・LINE グループで友達になる。
- ・存在を知ってもらおうことが後継者を作る大事な方法。

C : 交流 (他団体との) グループ



《交流 (他団体との) グループ》 どの団体とどのように交流・協力を行ったか？

- ・ イベント「統一カレンダー」があると、色々な人が参加しやすい。センター主体で作成配布。
- ・ 編集に関わるスキルがあると聞いたので、今後一緒をお願いしたい。
- ・ 他の団体を知ることができれば、コラボ企画をしたい。
- ・ 今回のように「つながる」場がもっとあると良い。
- ・ 「えがお」さんに掲載してもらって、広報活動の協力をお願いしたい。
- ・ 自分たちの活動をやっているだけではダメ。外に出ていくことを目指している。
- ・ 「タウンニュース」を使って広報。
- ・ 「えがお」さんはどこに何部くらい配布？ ←こういったつながりを目指し、協力していきたい。
- ・ 「記念館」を使って星を見る会何回も行っている。「樽中」や「区民活動支援センター」などと協力して居場所の連携を行っている。
- ・ 「えがお」は16,000部ほど配布。区内高齢者の半数は見てくれている（はず）。認知症の講師もしているので、福祉的な団体とのつながりができると良い。

- ・つながることで、その方々が持っているキーパーソンの方々へのつながりができて、その下流までつながれてよかった。
- ・同じ方向を向いている方々と「えがおまつり」を通じてつながれたので良かった。
- ・パパたちに家事スキルを上げてほしいので、男の3Gと料理教室を行った。
- ・民俗芸能、紙しばいなど、日本独自の文化としてもつながれると良い。
- ・無理に他の団体の方に協力してこなかったが、今回のつなぎ塾を通じて、協力を依頼しようと思った。
- ・「センター」の「つながるカフェ」でもつながってみたら？
- ・同じ流れを持つ「おはやし」の団体との交流（品川など）をしたりしている。
- ・支援の中でのつながりが最初。サポーターも福祉職が多い。引きこもりの方が行く場所（居場所）としての畑を提供したい。精神・身体の障害をお持ちの方、子育て世代も、もっと近くの方、助けが必要な方とつながっていききたい。
- ・区内の緞帳でつながった方々とともに、「日本民芸館」などともつながりを持てた。団体の中にも色々な分野の方がいて、つながっていった。
- ・「子ども支援団体交流会」を立ち上げた。現在、メーリングリストを作成。区役所や社協も協力。「こども食堂」や「子ども支援団体」とつながった。
- ・「まち普請」による独自の拠点を来夏にオープン予定。居場所の提供。つながるためにはこれから。
- ・各団体と協力して「公会堂」で発表会。それぞれ、子どもたちに教えていたので、発表の場を提供できた。
- ・元々、活動をつなぐ活動として始めた。イベントだけでなく、日常的に行うことが重要。
- ・「マッチングサイト（産前産後）」を通じて、色々なつながりを目指した。地域力を通じて「男の3G」とつながり、子育てパパと一緒にイベントを行えた。
- ・「家事・育児ができる男になろう！」と「100スマイル」さんが新米パパに対する料理教室をやりたいとのことで、コラボ企画を行った。
- ・子どもたちを対象とした団体さんたちとも紙しばいを通じた交流が行われると良い。

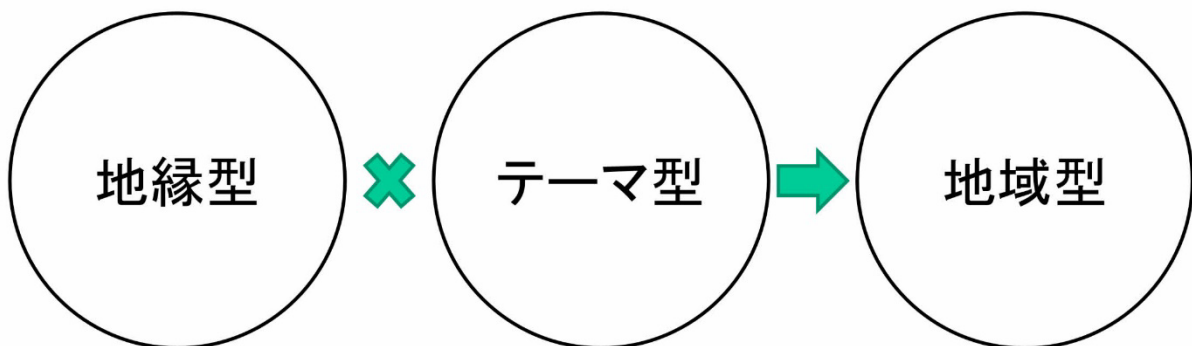
令和4年 港北区つなぎ塾

《これからの時代の地域まちづくり》 その2

令和4年11月10日

横浜市まちづくりコーディネーター
山路清貴

これからの活動団体類型の方向性



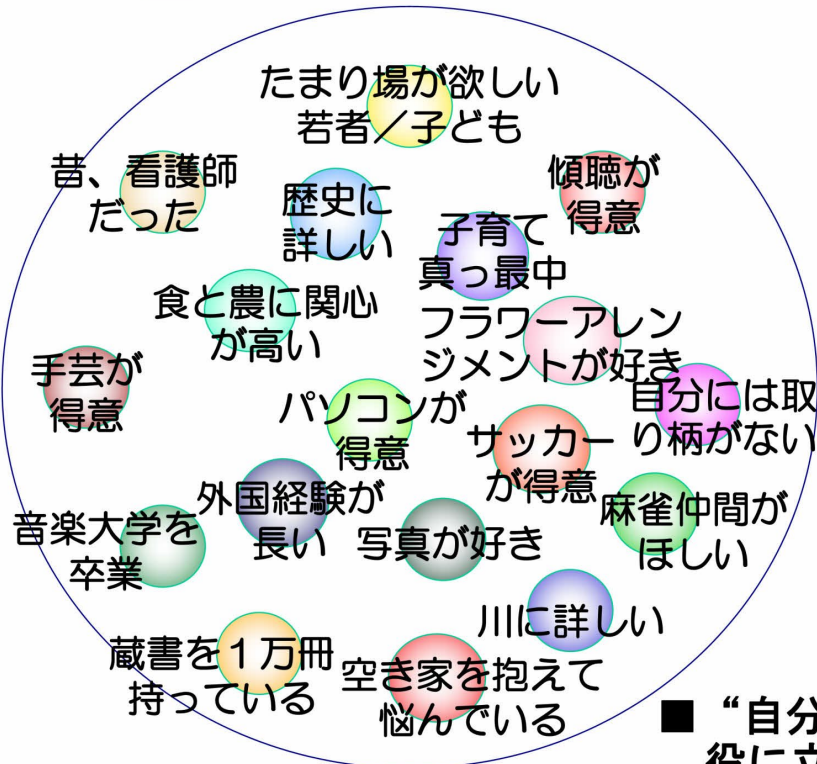
生活地域を共有する人々のつながり。自治会・町内会など。

関心事は、特定の価値観に裏打ちされた限定的なテーマ。

ある特定の都市空間に対する興味や共感によって結びつく。

3. 地域活動の参加者を増やす取組のポイント

① 全ての人に居場所と出番をつくる



“町会の仕事を担ってくれる人を探す”から
“あなたの特技や関心ごとをまちの活動に活かす”へ

■ “自分の好きなことが人の役に立つ”のは嬉しい

② 小さくやる

■ 小さな椅子大作戦(てらお福まち協議会)



椅子作成には木製おもちゃを直すボランティアが協力

⑤ 団塊の世代男性には、黙ってできる活動を

■くつろぎカフェ(音楽喫茶)
(旭区今宿地域ケアプラザ)



■菜園サロン(南区六ツ川連合自治会)



⑥ 不便から得られる益を見つける(不便益カード)

便利とは、手間がかからず、頭を使わなくても良いことだとします。そうすると、不便で良かった事や、不便じゃなくちゃダメなことが、色々見えてきます。

<p>能力低下を防ぐ Prevent downskilling</p> <p>発見できる Enhance awareness</p>	<p>上達できる Improve</p> <p>対象系を理解できる Understand systems</p>	<p>工夫できる Devise ways</p> <p>主体性が持てる Make original</p>	<p>安心できる 信頼できる Feel at ease Feel reliability</p> <p>俺だけ感がある Personalization</p>
--	--	---	---

「不便駅システム研究所」ホームページより

Ⅲ：終了後のアンケート

1. アンケート票

令和4年度港北つなぎ塾 アンケート

本日はご参加いただき、誠にありがとうございました。

今後の「港北つなぎ塾」の参考にさせていただきますので、アンケートのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

※必須 団体名 ()

設問1 「港北つなぎ塾」の内容はいかがでしたか。(〇は1つ)

1. とても良かった 2. 良かった 3. あまり良くなかった 4. 良くなかった

良かった点・参考になった点、あるいは良くなかった点を教えてください。

設問2 「港北つなぎ塾」でどのようなテーマを扱ってほしいか教えてください。

設問3 「港北つなぎ塾」に参加して、つながるために今後どういうことをするか教えてください。

設問4 事務局を通じて、つながりたい団体さんがあれば教えてください。

設問5 今後の「港北つなぎ塾」に望むことを教えてください。

設問6 今後つながりやすくするために、つなぎ塾の参加者に代表者の連絡先(メールアドレスorTEL)を公開しても良いですか？

可

不可

ご協力ありがとうございました。



2. 設問ごとの回答

設問1 「港北つなぎ塾」の内容はいかがでしたか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1. とても良かった=7票 | 2. 良かった=11票 |
| 3. あまり良くなかった=1票 | 4. 良くなかった=0票 |

【良かった点・参考になった点、あるいは良くなかった点を教えてください。】

(良かった点・参考になった点)

- ・港北区で活動されている他団体の人や活動内容に触れることができた点と、山路さんのお話が参考になった。
- ・他団体のお話を伺ってどんな活動をしていらっしゃるのか以前より理解が深まりました。全面的につながることは困難ですが活動内容によってはつながる可能性はあるかなと感じました。
- ・港北区内で活動をしているたくさんの団体を知る事ができた。
- ・他の活動団体の方々と知り合えたこと。
- ・色々な組織が活動されていることは知らなかったので、新鮮な気持ちで聞いた。
- ・他団体の取り組みが知れたのは良かった。
- ・皆が元気に活動していることで元気がもらえた。
- ・グループに分かれた話し合いで他団体の活動内容を知る事ができて参考になりました。
- ・生で話が聞けて顔が見えるのは良かった。
- ・色々な地域の活動団体を知ることができ、その活動内容がわかったことが大変参考になりました。
- ・皆と本音で語り合うことができた。
- ・様々な活動を実践されている方々がいることが分かった。
- ・地域の様々な団体の活動内容を知ることができ、ネットワークが広がる予感がした。
- ・それぞれが抱える課題を共有することで、別の視点からの意見を参考にすることができそう。
- ・仕事の予定があり途中退室となってしまいましたが、今後は是非秋の芸術祭に参加していただきたい団体さんを知ることができた。
- ・似たテーマを持つグループ分けや、机ごとにテーマをあらかじめ決めて、それに沿って進行していったことが良かった。
- ・改めて、区内の団体との交流ができました。早速、フードパントリーに虹色畑さんから野菜の寄付をいただき、利用者さんに喜んでいただくことができました。
- ・普段お会いする機会の少ない地域の活動団体の方と話をする機会を得られたこと。
- ・地域の各団体がつながりたいけれどつながることができない状況と、つながるために求めている施策等を知ることができたこと。
- ・ファシリテーターは初めての役でいい経験になりました。
- ・同じような参加対象者を持った団体と出会うことができた。
- ・港北を楽しく、温かい所にしたいという思いで、こんな場所、空間を提供したいという団体や人に会えたことは目を開かされる思いでした。

- ・色々な地域活動をされておられる団体を知ることができた。

(良くなかった点)

- ・自分たちの動きとはまた違うのかなと思った。
- ・町内会を揶揄するような内容の落語は残念だった。
- ・1回目のみ、参加団体、活動内容が多数のため、個々の紹介が短すぎ。
- ・平日開催で参加できる人員に限られる。
- ・当日に行う内容について、もう少し早めに知りたかったです。(参加者の中で、団体の活動に参加して間がないために、意見交換のテーマについて具体的に話せないという方がいました。もし事前に内容がわかっていたら、団体内で相談した準備ができたのではないと思いました。あと私自身の問題として、ファシリテーターのような役は苦手でしたので、心の準備をする時間がもう少しあれば・とも思ったりしました。

設問2「港北つなぎ塾」でどのようなテーマを扱ってほしいか教えてください。

- ・ノウハウの交換につながるテーマ(今回のテーマや方法はとても良かったと思います。)
- ・団体運営あるある話と、ピンチを切り抜けた体験談など。
- ・ビジョンから広げ方、巻き込み方、実現の仕方。
- ・宣伝告知の方法について。
- ・ウィズコロナからアフターコロナに向けた取り組み方。
- ・区であったり市であったり県であったり色々な施設があるが、それらの具体的な使い方、又はどのように使っているかなどを知る機会があればいい。
- ・町内レベルの楽しいイベント。
- ・関連する団体同士の交流と協力のマッチングなど。
- ・ボランティアの募集等、運営側の人材確保。
- ・地域ごとの特性に合わせた活動について。
- ・「港北つなぎ塾」での出会いをその場限りにせず、どのように活用していくか。
- ・活動の協力者、活動の担い手づくりの実践例。
- ・団体の高齢化に伴う「後継者」問題について。
- ・地域に広めたい、お知らせしたいイベントを続けるために、後継者づくりのノウハウを知りたい。
- ・地域のチカラ、ふるさとサポート事業などに参加した団体の、OB会。
- ・インターネット・SNSの活用について(過去や最近も扱っていたテーマかと思いますが、つながるために効果的な各SNSの利用方法・発信内容などを知りたいです。)
- ・地域の特性や抱える課題。
- ・どのように、後継者やスタッフを獲得していくか。運営において人員体制で困っていることの共有。
- ・子どもの学習や育成について、地域の歴史、世代間交流等。

設問3 「港北つなぎ塾」に参加して、つながるために今後どういことをしようか教えてください。

- ・自分たちの活動内容を発信するための媒体をまずは整理する。
- ・他団体の活動をより理解しお互いに広報・宣伝ができればいいと感じました。ハンドレッドスマイルに関しては、子育て家族へのサポートができる方はサポートメンバーとして登録をお願いしたいです。
- ・まずは、機会を見つけてゆるく繋がっておくこと。ゆくゆくはコラボ企画ができれば面白そうだと思います。
- ・具体的な活動を増やす。
- ・自分たちの活動を発信していくこと。
- ・しろさと絆プロジェクトを通して多くの地域の皆さんとつながっていききたい。
- ・共同でできるイベントがあれば情報共有をして進めていきたい。
- ・今回の交流会で初めての団体との交流が大変役に立ちました。
- ・この交流会を年に数回出来たらよいと思いました。
- ・参加できる活動や、訪れることができる場所に赴いてみることに。
- ・冊子を発行するので、皆さんにお配りしたいと思います。
- ・活動の場で困っている団体には、相談に応じていきたい。
- ・施設管理者の立場は「つなぐお手伝い」をする側として情報や場の提供。
- ・グループ内で自己満足するのではなく、広く他のグループの活動状況を知って、活動の参考にさせていただきたい。
- ・つながりマップの作製。
- ・自身の団体や活動と直接関係がなさそうでも、興味があるイベント等にいろいろと参加してみたいです。（思わぬつながりが生まれること、新たな活動の展開を期待して）
- ・つながりたいと思っても、どんな団体があり、どんな活動をしているのかを知る場が少ないという意見がありましたので、情報発信を増やして、まずは知ってもらえる機会を増やしたいと思いました。
- ・今までコンタクトを取ったり、交流してきた団体の方々とより強い絆を築き、そこからまた新しい団体の方々と手をつなげあえたら。（例えば、小さい規模でも交流会を開くなど）
- ・地道に発信を続けていく。

設問4 事務局を通じて、つながりたい団体さんがあれば教えてください。

- ・虹色畑クラブ（←ハンドレッドスマイル）。幼児（発達障害）を持つ家族の居場所の一つとして紹介したいと思いましたが需要があるかは不明です。
- ・当日ご挨拶できました！（←えがお）
- ・学習支援を必要とする団体様があればつながりたいと思っています。（←バンブーマナビ塾）
- ・次年度の自主事業計画を立てる際に検討させていただきます。（←菊名地区センター）
- ・港北民俗芸能保存会（←大倉山秋の芸術祭実行委員会）

- ・はまっ風寄席（楽々）（←大倉山秋の芸術祭実行委員会）
- ・これまでも「街の先生」にお世話になり、とても感謝しております。（←小さな丘のメリークリスマス実行委員会）
- ・バンブーマナビ塾（←虹色畑クラブ）
- ・居場所づくり濱なかま（←虹色畑クラブ）
- ・SOW（←虹色畑クラブ）
- ・師岡スタイル（みその農園 肥後さん）（←虹色畑クラブ）
- ・小さな丘のメリークリスマス実行委員会（←たまたまばこ）
- ・SOW（←たまたまばこ）
- ・港北ボランティアガイドの会（←たまたまばこ）
- ・えがおの本間さんがお声を掛けて下さり、うれしかったです。（←港北ふれあいストリートダンスまつり実行委員会）

設問5 今後の「港北つなぎ塾」に望むことを教えてください。

- ・他団体さんと具体的につながることでできる仕組みがある場所。
- ・港北区役所の他課（こども家庭支援課）の協力もしていただけると助かります。チラシを配架してほしい団体が多数あるので特定の団体のチラシは配架はできないという事があるようで残念です。地域振興課の後援があっても難しそうです。
- ・平日よりは休日が参加しやすいです。（仕事をしているため）
- ・つなぎ塾に出てこない団体さんとの接点を積極的に作ってくださり、現在のメンバーでフォローアップして全体の底上げができるようにしたい。
- ・様々な団体がつながることでシナジー効果も期待できると思う。
- ・港北区内で活動している団体を一覧表にして、月間又は年間のイベントや活動の案内ができれば良いと思います。
- ・実際の活動場所の見学会があると良いと思います。
- ・メンバー一人ひとりの出番（役割）の作り方。
- ・つなぎ塾でつながった団体が区内の会場を利用して合同イベントを開催するなどの「塾で得た事」の成果を実感できるようなイベントをやってみたらいかがでしょう。（区が主催になれば会場も利用しやすいかと…）
- ・活動をしていく上で、取り込むイベント内容など紹介や相談に乗っていただけるとありがたいです。（通年で）
- ・港北区内のイベントスケジュールが一覧できると良いです。
- ・地域には「何か始めたい」「つながりたい」と望む人や団体は多くいるので、丁寧な広報と企画を重ねて、顔の見える関係性を作って、継続して開催していく「広場」のようなものをつくってほしい。
- ・設問1の回答と関連しますが、大体の内容や流れだけでも事前に知らせていただくとありがたかったかなと思いました。人前で唐突に話題をふられて話すことが苦手な方もいますし、事前に何を学ぶか、その目的が何かははっきりしている方が、「塾」として学びもより深まるように思いました。

- ・ 設問2の回答に関連しますが、つながる目的には、地域の課題解決にみんなで取り組むという点があるかと思います。港北区にどんな課題や需要があるのか、自分が関心のある分野以外の問題には気づかない部分があるかと思いますので、そのあたり多方面から伺う機会があればと思いました。
- ・ こうした企画があっても平日開催だと、自団体の活動との兼ね合いで参加が難しいとのご意見もありましたので、土日開催もあると参加者の数や傾向が変わり、より広いつながりの機会になるのかなと思いました。
- ・ このような横のつながりが作れるような場を提供し続けていただきたいです。
- ・ 設問3のようなコラボ企画や、他団体さんとの繋がりを作っていきたいと常に思っているが、実際には通常の活動運営に追われたり、日常生活の多忙さでなかなか直接連絡するところまでいけないので、つなぎ塾のような機会の時に、そういったことまでお話しできるような「関係づくりの時間」をもっといただけたらありがたいです。

設問6 今後つながりやすくするために、つなぎ塾の参加者に代表者の連絡先（メールアドレス or TEL）を公開しても良いですか？

【回答 19 件のうち】

可 = 17 票

不可 = 2 票